

1709 **【糶】** 米部 1 画 総画 7 画 国字

〔読み〕 ひえ

〔解説〕 『世尊寺本字鏡』に「ヒエ」とある。「稗(ひえ)」の意の国字か。

1710 **【料】** 米部 2 画 総画 8 画 国字

〔読み〕 デカメートル

〔解説〕 デカメートル(10m)の意の国字。笹原宏之著『メートル法単位を表す国字の製作と展開』に「中央气象台でメートル法を表す記号を研究して1891年7月1日各气象台に通知し、気象観測の月報などに使い始めた。中国では19世紀末から教科書や科学書に、日本から伝わった「料」や「𪛗」等が体系的ではないが使われ始めた」とある。笹原宏之著『メートル法単位を表す国字の漢字圏各国における衰退』、小泉袈裟勝著『度量衡の歴史』・『日本メートル法沿革史』にも詳しい。『字彙補』・『康熙字典』・『中華大字典』などに「古躡字」とあるが、『メートル法単位を表す国字の製作と展開』によると『古今韻會舉要』の「𪛗」がかすれていたため誤刻されたとのことである。本来存在する字形ではなく、国字としてよいと考えられる。台湾の漢字規格にもある。『メートル法単位を表す国字の製作と展開』は、初出論文から引用したが、『メートル法単位を表す国字の漢字圏各国における衰退』の内容とともに、より詳しく新しい考察が『国字の位相と展開』にある。

1711 **【糶】** 米部 2 画 総画 8 画 国字

〔読み〕 センチメートル

〔解説〕 『読む日本漢字百科』に「糶(糶)センチメートル」とある。「糶」と同意の国字としていることがわかる。

1712 **【判】** 米部 2 画 総画 8 画 国字

〔読み〕 とくこおり こおりとく

〔解説〕 『世尊寺本字鏡』に「トク氷」、『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』に「氷トク」とある。

1713 **【𪛗】** 米部 2 画 総画 8 画 国字

〔読み〕 ニュウ

〔解説〕 『温故知新書』に「ニフ 稲栄木積重」とある。旁は、稲を乾燥させるために稲木に掛けた形を「入」いう字の形に見立てたものか。

1714 **【𪛗】** 米部 3 画 総画 9 画 国字

〔読み〕 キロメートル

〔解説〕 キロメートル(km)の意の国字。十一料橋(じゅういちきろばし)は、北海道沙流郡平取町の地名。台湾・韓国の漢字規格にもあるが、『漢韓最新理想玉篇』が「韓国国字」とするのは誤り。「料」を参照。

1715 **【粦】** 米部 3 画 総画 9 画 国字か

〔読み〕 くめ

〔解説〕 東粦原(ひがしくめばら)・西粦原(にしくめばら)は、埼玉県南埼玉郡宮代町の地名。『漢字の研究』(我國にて制作したる漢字)に「クメ」とある。『歌舞伎・浄瑠璃外題よみかた辞典』

に「条仙人(くめのせんにな)元禄元年(1688)2月初演」とある。『旺文社漢字典』に「国字 くめ」、解字に「形声。久 ク と 米 メ の音をとってクメの音を表した字」、意味として「くめ。姓名・地名などの「くめ」を表すのに用いる。」とある。『角川漢和中辞典』も同様の解説で、「米」の音「メ」が「ベイ」の転音であり、「ク」と「メ」の合字であるとする解説が追加されるのみである。これらの解説は、ごく普通の妥当な解説と考えられるかも知れないがそうではない。解字で、形声とするのが特によくない。形声とは、『大漢語林』には、「意味を表す部分(形)と発音を表す部分(声)からなる漢字。」とある。「条」には意味を表す部分がなく、「ク」・「メ」ともに発音を表し、「メ」は漢字音ではなく、日本の慣用音である。六書は、漢字の成り立ちをあらわしたものであり、国字としながら六書を適用しようとする自体に無理があるのである。『新大字典』は国字とするが、字義に「くめ。久米の合字。姓名・地名等に用いる」とするほか「齊の略字」とし、俗字として「条」を載せる。略字・俗字というのが日本でのみのことであれば、「久米を合字した国字」と「齊の略字」という形の和製異体字の別字衝突ということもできる。『中華字海』に「条」は「音義待考。字出《ISO-IEC DIS 10646 通用編碼字符集》」とあり、「条」は、「同齊。字見《字彙補》」とある。『大漢和辞典』には「条」は「国字 くめ。久米の合字。①姓名・地名等に用ひる。②齊の略字。」とあり、「条」は『字彙補』を典拠に「齊に同じ。」とある。「齊」の意に用いられる「条」と「条」の関係は、『新大字典』とその旧版である『大字典』にあるのみである。『字彙補』に「条與齊義同見〔五音集韻〕」とあることから、「条」も「齊の略字」として用いられるようになったのであろう。これは日本でおきたことなのであろうが、この時点で、「久米の合字」としての「条」ができていたかどうか、国字とすべきか否かの分かれ目となる。国字「条」に漢字「齊」の略字としての意味が加わった可能性と、齊の略字「条」の和製異体字としてできた「条」に「クメ」の訓が加えられた可能性が考えられるが、『大字典』・『新大字典』が「条」を「条」の俗字とするのは本末転倒であると考えられる。典拠が明らかでないが、『漢字要覧』に「漢字ニソノ體アリテ、支那ノ書ニモ見エタルモノ」として漢字の意味として「齊ト同じ」、「本邦ニテ別ニ意ヲ定メタルモノ」として「くめ(久米)」とある。これが正しいとすれば、「くめ」は国訓ということになる。『大漢語林』には、「国字 くめ。姓名・地名などに用いる。」、参考に「齊の字としても用いられる。」、解字に「久+米の合字(下略)」とある。「齊の略字」ということが、中国によらないものだとしても、「久米の合字」としての「条」とは何ら関係のないことであろう。国字であるとしても、「久米の合字」としての解説の中で、「齊の略字」として扱うべきではなく、それぞれ独立して扱うべきであろうと考えられる。

1716 **【𪛗】** 米部3画 総画9画 「モミ」は、国訓

〔読み〕 チュウ モウ もみ ちまき

〔解説〕 『国字の字典』が『和字正俗通』を典拠に「もみ」の意の国字とするが、『和字正俗通』の字形は、下に示したとおりである。『五音篇海』が『搜神玉鏡』を典拠に「音尼」とする。国字ではない。『観智院本類聚名義抄』に「正 モミ チマキ カシキカテ 粃 俗」、『世尊寺本字鏡』に「チウ音 女救反 マウ音 モツ モミ 古𪛗𪛗 雜也 粽也(下略)」、『有坂本和名集』に「モミ」、『音訓篇立』に「チウ マウ音 モツ モミ」、『永禄二年本節用集』・『堯空本節用集』に「モミ 米 音尼」、『正楷録』(倭楷)に「末密」とある。『皇朝造字攷』は『続日本紀』などの典拠を示すのみで読みや解説は付けない。『玄應一切經音義』・『天治本新撰字鏡』に『世尊寺本字鏡』と同様な注文があり、『五音篇海』と『永禄二年本節用集』・『堯空本節用集』に同じ音注があることを考えれば、「モミ」は国訓であろう。『運歩色葉集』・『大谷大学本節用集』・『和字正俗通』・『國字考』に「𪛗 モミ」とある。「𪛗」と「𪛗」の中間的な字形で、『同文通考』に「モミ 穀也」とある。(解説途中)

1717 **【𪛗】** 米部3画 総画9画 「𪛗」の異体字

〔読み〕 もみ くら

〔解説〕 『運歩色葉集』・『大谷大学本節用集』・『和字正俗通』・『國字考』に「モミ」、『玉篇略』

に「モミ クラ」とある。『和爾雅』には、「倭俗ノ制字」として「モミ 穀ノ字佳」とある。「粃」の異体字にすぎず、国字とはいえないであろうが、和製異体字の可能性はある。「粃」参照。

1718 **【糶】** 米部 3画 総画 9画 国字か

〔読み〕 うるわし

〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『龍谷大学本字鏡集』・『寛元本字鏡集』・『音訓篇立』に「ウルハシ」、『篇目次第』に「ウルハシ 无」とある。

1719 **【粃】** 米部 3画 総画 9画 国字

〔読み〕 メリアメートル

〔解説〕 メリアメートル(10,000m)の意の国字。『国字の位相と展開』によれば、長沢亀之助『算術辞典』(1909)が、この字が見られるもっとも古い典拠である。

1720 **【粃】** 米部 3画 総画 9画 国字

〔読み〕 しき

〔解説〕 苗字に和田(しきた)がある。

1721 **【粃】** 米部 4画 総画 10画 「ミリメートル」は、国訓か

〔読み〕 ミリメートル

〔解説〕 ミリメートル(1mm)の意の国字とされる。『米沢文庫本倭玉篇』に「カウ ツクル」とある。この場合は、「粃」の異体字であろう。『漢語大字典』に『改併四聲篇海』が『俗字背篇』から「知革切」と引くとある。明らかに同形別字であるが、漢字としての字形の方が先に存在している。漢字「粉(こな)」に対して「粉(デシメートル)」が国訓であるという取り扱いが一般的であることを基準にすれば、国訓といえるであろう。『中華字海』には「mm の旧訳」とのみある。台湾・韓国の漢字規格にもあるが、『漢韓最新理想玉篇』が「韓国国字」とするのは誤りである。「料」参照。

1722 **【粃】** 米部 4画 総画 10画 国字

〔読み〕 めか

〔解説〕 粃蒔沢(めかまきざわ)は秋田県秋田市の地名。『JIS X 0208:1997 附属書7(参考) 区点位置詳説』は、原点典拠として『国土行政区画総覧』から「粃蒔沢(めかまきざわ)」をあげるが、「粃蒔沢(めかまきざわ)」の誤り。「すくも」と読む辞書もあるが、「粃」の読みをあてただけで、根拠のないものであろう。

1723 **【粃】** 米部 4画 総画 10画 「デシメートル」は、国訓か

〔読み〕 デシメートル

〔解説〕 デシメートル(1/10m)の意の字。「こな」の意の字とは、同形別字であるが、この辞典では、国字とする取り扱いをしない。

1724 **【粃】** 米部 4画 総画 10画 国字

〔読み〕 けはい

〔解説〕 苗字に糶坂(けはいざか)がある。「化粧(けわい)」の省画合字か。

1725 **【糶】** 米部 4画 総画 10画 国字

〔読み〕 タ

〔解説〕 「糶(ジンタ)」は、「めかみそ。糶味噌の略」などの意である。『日本国語大辞典』が滑稽本『浮穴床』から「隣の糶の唐最負」と引いており、江戸時代にはさかのぼれる文字で

ある。『大漢和辞典』は「タ 糲米は、ぬかみそ。(下略)」として国字とはしていないが、典拠が無く、国字としなかった根拠は不明である。『漢語大字典』・『中華字海』などになく、国字と考えられる。

1726 **【糲】** 米部 4画 総画 10画 国字

〔読み〕 うるしね しい

〔解説〕 『永禄八年版色葉字類抄』に「ウルシ子」、『黒川本色葉字類抄』に「ウルシ子 シヒ」、『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』に「ウルシ子」とある。「ウルシネ」とは、粳米(うるちまい:もち米ではない普段食べる粘り気の強くない米のこと)がとれる稲のこと。「粳」・「粿」参照。

1727 **【粳】** 米部 4画 総画 10画 国字

〔読み〕 うるしね

〔解説〕 『世尊寺本字鏡』に「粿 子ムコクハシ ウルシ子 粳」とある。「ウルシネ」とは、粳米(うるちまい:もち米ではない普段食べる粘り気の強くない米のこと)がとれる稲のこと。「糲」・「粿」参照。

1728 **【粿】** 米部 5画 総画 11画 国字

〔読み〕 うるしね

〔解説〕 『世尊寺本字鏡』に「子ムコクハシ ウルシ子 粳」とある。「ウルシネ」とは、粳米(うるちまい:もち米ではない普段食べる粘り気の強くない米のこと)がとれる稲のこと。「糲」・「粳」参照。

1729 **【糲】** 米部 5画 総画 11画 「すくも」は、非国字

〔読み〕 すくも

〔解説〕 『日本山名総覧』に「糲塚 スクモヅカ」とある。同書によると標高55mで、大栄町にある鳥取県一低い山ということである(国土地理院作成の地図に載っている世界一低い山は、大阪の天保山で、5mに満たない人工の山である。)。『中華字海』に「音坡。義未詳。見《字彙補》」とあり、国字ではないが、「糲」と同じ発想で、「スクモ」と読まれた文字には違いないであろう。「糲」・「糲」参照。

1730 **【糲】** 米部 6画 総画 12画 国字

〔読み〕 すくも

〔解説〕 糲島(すくもじま)は山口県徳山市の地名。『難訓辞典』に「周防國都濃郡糲島(すくもじま)村」とある。「すくも」は、粳殻(もみがら)のこと。「糲」・「糲」参照。

1731 **【糲】** 米部 6画 総画 12画 「糲」の誤字か

〔読み〕 うるち

〔解説〕 『JIS X 0208:1997 附属書7(参考) 区点位置詳説』に「『国土行政区画総覧』にある福島県の糲田(うるちだ)が JIS の原典典拠。ただし、現地(白河市)の役所によれば糲田(もちだ)」とある。「糲」は苗字では「うるち」とも「もち」とも読まれる。「糲」が誤字としても「糲田」が「うるちだ」と呼ばれた時期がある可能性は否定できない。

1732 **【糲】** 米部 6画 総画 12画 国字

〔読み〕 ヘクトメートル

〔解説〕 ヘクトメートル(100m)の意の国字。「糲」を参照。

1733 **【糎】** 米部 6画 総画 12画 「すくも」は、国訓
〔読み〕 すくも
〔解説〕 苗字に糎田(すくもた すくもだ)がある。国字とされることがあるが、『漢語大字典』などが『説文』・『集韻』を典拠に「同糎」とする。「糎」は「陳臭米・赤米」の意で、「すくも」の意はない。「すくも」と読む字の内、「糎・糎」は国字。

1734 **【糎】** 米部 6画 総画 12画 国字
〔読み〕 さぐる
〔解説〕 『世尊寺本字鏡』・『音訓篇立』に「サクル」とある。「摸(さぐる)」意の国字か。

1735 **【糎】** 米部 6画 総画 12画 「翻」の誤字
〔読み〕 ホン ひるがえる
〔解説〕 『世尊寺本字鏡』に「ホン音 ヒルカヘル」とある。「翻(ひるがえる)」の誤字か。

1736 **【糎】** 米部 6画 総画 12画 「糖」の異体字
〔読み〕 あめ まて
〔解説〕 苗字に糎形(あめがた) 上糎(かみまて)がある。『JIS X 0213:2000 附属書6(規定)漢字の分類及び配列』(第4水準漢字集合)の「用例及び用例音訓(参考)」に「人名 アメ 糎形(アメガタ・姓)」とあり、『大修館漢語新辞典』に「糖の俗字。」とある。糖の和製異体字か。

1737 **【糎】** 米部 7画 総画 13画
〔読み〕 はなはな まめのなる
〔解説〕 『音訓篇立』に「ハナハナ マメノナル」とある。『中華字海』が『篇海類編』を典拠に「音豆義未詳」とする。

1738 **【糎】** 米部 7画 総画 13画 国字
〔読み〕 こうじ
〔解説〕 苗字に糎谷(こうたに・こうじたに・こおじたに)がある。糎屋(こうじや)は、兵庫県多可郡多可町中区(旧:多可郡中町)の地名。『異體字辨』に「カウジ」・『同文通考』に「カウシ 麴也」・『和字正俗通』に「カウチ」・『國字考』に「カウシ かうし乃(中略)花の如くなるによ里て造れる字なるへし(下略)」・『漢字の研究』(我國にて制作したる漢字)に「カウヂ」とある。『和字正俗通』には、「糎」に対応する漢字として「麴」を「麥偏」にした字があげられている。「麴(こうじ)」の意の国字か。『異體字辨』は、四画の草冠である。

1739 **【糎】** 米部 7画 総画 13画
〔読み〕 ちまき
〔解説〕 『天治本新撰字鏡』に「作弄反去知万支」とあり、『国字の字典』が「粽(ちまき)」の意の国字とする。『中華字海』などにはないが、反切があるうえに去聲であることまで示されている、佚存文字(中国などに元々存在したが、その後失われた文字)である可能性が高く、軽々に国字とは言えないと考えられる。

1740 **【糎】** 米部 8画 総画 14画 国字
〔読み〕 もむ
〔解説〕 『篇目次第』に「モム 无」とある。

- 1741 **【粳】** 米部 8 画 総画 14 画 国字
〔読み〕 テイ ゆする
〔解説〕 『天治本新撰字鏡』に「定音 由須留」、『音訓篇立』に「テイ音 ユスル」とある。
- 1742 **【粳】** 米部 8 画 総画 14 画 国字
〔読み〕 いひ つひ
〔解説〕 『世尊寺本字鏡』・『音訓篇立』に「イヒ ツヒ」とある。
- 1743 **【粳】** 米部 9 画 総画 15 画 国字
〔読み〕 センチメートル
〔解説〕 センチメートル(cm)の意の国字。「料」を参照。「粳」参照。
- 1744 **【粽】** 米部 9 画 総画 15 画 国字
〔読み〕 むか
〔解説〕 『世尊寺本字鏡』に「ヌカ」とある。「糠(むか)」がくずれた字か。
- 1745 **【糶】** 米部 9 画 総画 15 画 国字
〔読み〕 かへて ふるふみなり
〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』に「カヘテ フルフミナリ」、『篇目次第』に「カヘテ 无」とある。『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』は字形が崩れているが、同字であろう。
- 1746 **【糶】** 米部 10 画 総画 16 画 国字
〔読み〕 すくも
〔解説〕 『JIS X 0208:1997 附属書7(参考) 区点位置詳説』に「JIS の典拠は広島県の祇園町西山本糶尻(すくもじり)」とある。『日本地図帖地名索引』に同県の糶地(すくもじ)、『国字の字典』に岡山県久米郡久米町大字桑下字糶山(すくもやま)がある。『日本山名総覧』に「糶山 スクモヤマ」とあり、所在市町村名として岡山県の久米町とある。字糶山の地名の元となったのは、この山であろう。「すくも」は、粳殻(もみがら)のこと。「糶」・「糶」参照。
- 1747 **【糶】** 米部 10 画 総画 16 画 国字
〔読み〕 つく
〔解説〕 『天文本字鏡鈔』・『永正本字鏡抄』・『寛元本字鏡集』・『応永本字鏡集』に「ツク」とある。
- 1748 **【糶】** 米部 11 画 総画 17 画 国字
〔読み〕 もち
〔解説〕 笹原宏之著『文字から見た日本語らしさ』に「秋田県由利郡仁賀保町に小字「糶田」があり、役場によると「もちだ」と読むので、「糶」という漢字の字体が変化したものと思われる」とある。また同書に「秋田県南秋田郡井川町に「糶田」があり、役場によると「もちた」と読む」とある。
- 1749 **【糶】** 米部 12 画 総画 18 画 国字
〔読み〕 しいな
〔解説〕 宮城県角田市に糶塚(しいなづか)がある。「しいな」とは、実のないもみのこと。

- 1750 **糶** 米部 12 画 総画 18 画
〔読み〕 へひる
〔解説〕 『世尊寺本字鏡』に「へヒル」、『篇目次第』に「へヒル 无」とある。『中華字海』が『篇海』を典拠に「音資。義未詳」とする。国字ではない。
- 1751 **粿** 米部 12 画 総画 18 画 国字
〔読み〕 おく
〔解説〕 『有坂本和名集』札記が『天正四年本新撰類聚往來』から「ヲク」と引く。「早稲(わせ)」に対する「晩稲(おくて)」の意の国字か。
- 1752 **糶** 米部 13 画 総画 19 画
〔読み〕 フウ ホウ フ かたかす むぎ まむぎ いわむぎ
〔解説〕 『天治本新撰字鏡』に「快打反糶堅也加太加須」とあり、「固糶(かたかす)」の意の国字とする説がある。『朝鮮本龍龕手鑑』に「俗音豊」とある。国字ではないと考えられる。『観智院本類聚名義抄』に「俗鷓糶字小豊煮麦賣」、『天文本字鏡鈔』に「フウ ホウ 糶同 カタカス ムキ マムキ イハムキ」、『音訓篇立』に「フ音 カタカス」とある。
- 1753 **糶** 米部 15 画 総画 21 画 国字あるいは「糶」の異体字
〔読み〕 はぜ
〔解説〕 苗字に糶(はぜ)がある。音が確認できないが、「糶(はぜ)」の異体字とも考えられる。